

三重県版キャリア教育プログラムシートを活用した
高等学校キャリア教育プログラム
策定ガイドブック

平成27年3月

三重県教育委員会事務局 高校教育課

CAREER EDUCATION PROGRAM

はじめに

三重県教育委員会では、各高等学校においてキャリア教育プログラムを策定し、生徒の社会的・職業的自立に向けた取組が進むよう、平成26年3月に三重県版高等学校キャリア教育モデルプログラムを作成して、冊子「高等学校におけるキャリア教育プログラムの策定に向けて」を発行しました。

生産年齢人口の減少やグローバル化の進展等により、社会構造や雇用環境が大きく変化することが予測される中、将来を担う子どもたちには、変化を乗り越える高い志と意欲を持つことや、未来を切り拓く力を身に付けることが求められています。

変化する社会において、子どもたちが希望をもって主体的に自己の未来を切り拓くためには、学校での学びと自己の将来との関係に意義を見出し、学ぶ意欲を高め、今学んでいることを将来の社会生活や職業生活で活用できるようになることが必要です。

平成24年度に国立教育政策研究所が実施した「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」によると、生徒の学習意欲が向上している高等学校ほど、体系的・系統的なキャリア教育の計画及び実践を進めていることが明らかになっています。

すべての教職員が、適切な時期に適切な内容のキャリア教育を行うためには、日常の教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系的・系統的なキャリア教育プログラムの策定を進めることが必要です。

各高等学校において、子どもたちの輝く未来づくりにつながるキャリア教育が実践できるよう、本ガイドブックを参考に、三重県版キャリア教育プログラムシートを活用し、独自のキャリア教育プログラムを策定していただきたいと思います。

最後になりますが、本ガイドブックの作成にあたりご尽力を賜りました6人の県立高等学校の先生をはじめ、多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げますとともに、本ガイドブックが、本県におけるキャリア教育プログラムの策定とキャリア教育の一層の充実に寄与することを祈念いたします。

平成27年3月

三重県教育委員会事務局 高校教育課長

Contents

	三重県版キャリア教育プログラムシートの構成	P.1
	本ガイドブックの使い方	P.3
	キャリア教育プログラムの策定と実践の流れ	P.4
	生徒・学校の現状把握	P.5
	「将来の姿」の設定	P.7
	「キャリア教育をとおして身に付けたい力」の設定	P.9
	「コアプログラム」の作成	P.11
	「キャリア教育の観点から見た教科のねらい」の設定	P.15
	「生徒への関わりから見た分掌の取組」の設定	P.17
	「キャリア教育の観点から見た部活動のねらい」の設定	P.19
	次へつなげるための振り返り（評価・改善）	P.21
	各項目の設定・作成に活用できるワークショップ	P.23

三重県版キャリア教育プログラムシートの構成

三重県版キャリア教育プログラムシートは、キャリア教育プログラムを策定する際に確認しておきたい要素で構成しています。学校の実態に応じてアレンジし、独自のプログラムを策定してください。

1 生徒・学校の現状把握 P.5

三重県版キャリア教育プログラムシートの各項目の設定・作成は、現状把握から始まります。様々な視点から生徒や学校の現状を把握します。

2 「将来の姿」の設定 P.7

高校あるいは大学等を卒業した後の社会生活における生徒の姿を「将来の姿」として設定します。将来の姿を見据えることで、生徒の社会生活における在り方生き方につながるキャリア教育を展開します。

3 「キャリア教育をとおして身に付けたい力」の設定 P.9

「将来の姿」の実現に向けて、高校時代にどのような力を身に付けることが必要かを、学力と基礎的・汎用的能力の5つの観点について設定します。

入学前の働きかけ

中学生が、高校生活へ円滑に移行するための、高校生や高校の教職員による中学生を対象とした活動を記述します。

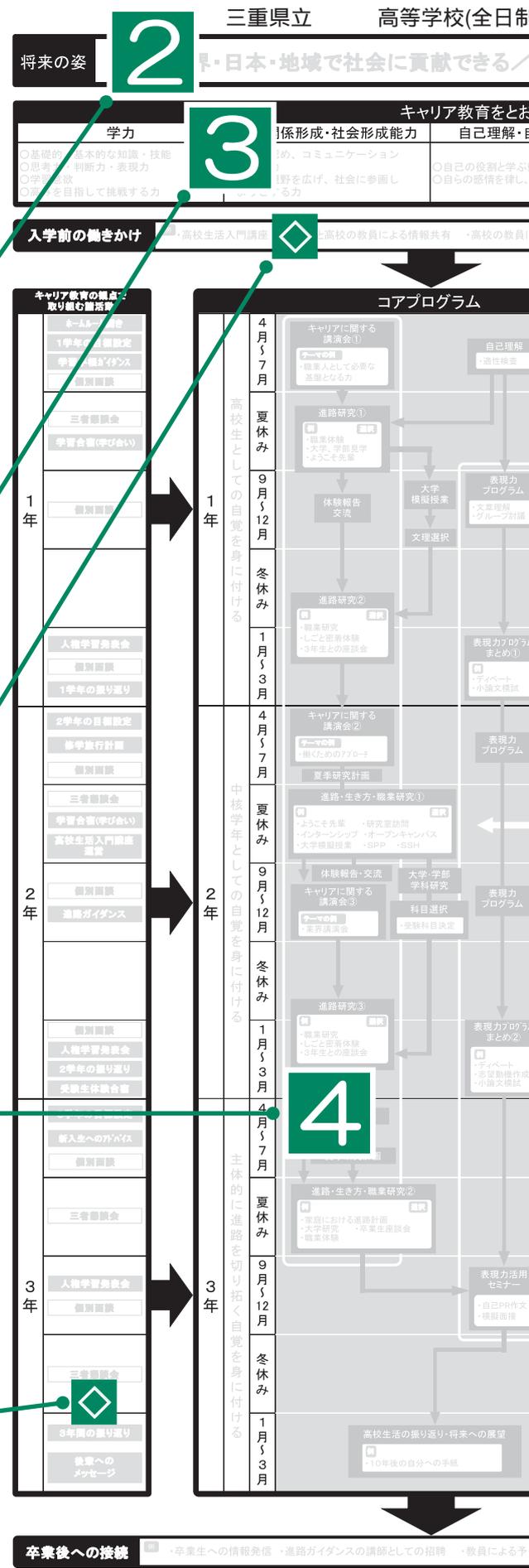
4 「コアプログラム」の作成 P.11

「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」、ホームルーム活動等の中で、学校がキャリア教育の中心に据えている活動を洗い出し、フローチャートで表します。

※校内で活動内容について共通理解が図られている場合は、活動の例を省略します。

キャリア教育の観点で取り組む諸活動

コアプログラム以外で、生徒のキャリア発達に深く関係する諸活動を記述します。



副課程) キャリア教育プログラム

社会の中で、自分らしい生き方ができる

将来の姿

して身に付けたい力

自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> ○ 動機を見いだす力 ○ 高い志を貫く力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心に基づいて課題を発見する力 ○ より良い手段で課題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生きることと働くこととの関係を理解する力 ○ 社会貢献に向けて自らの将来を設計できる力

による出前授業・生徒の授業交流



キャリア教育の観点から見た教科のねらい	
学	<p>基礎的・基本的な知識・技能</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p>学習意欲</p> <p>専門的な知識・技能</p> <p>手法の例 アクティブラーニング</p>
人間関係形成・社会形成能力	<p>5</p> <p>全教科 仲間と共に学び合うことで、他者を尊重し、互いに補完する。</p> <p>数学 他者と協力して、効率よくデータが活用できることとコミュニケーションを円滑に身に付ける。</p> <p>情報 望ましい情報化社会の在り方を他者と討議し意見を発表する。</p> <p>芸術 鑑賞活動を通じて感じたこと、価値観や感性の違いを知る。</p> <p>自己理解・自己管理能力</p>
課題対応能力	<p>全教科 自ら計画を立てて学習に取り組み、成果を振り返ってさらに自身の能力を高める。</p> <p>国語 自分の考えを正しく伝達し、相手の考えを正しく認識することで、自己理解につなげる。</p> <p>英語 広く社会の歴史や文化を学ぶことを通じて、自分の考えや行動を振り返り、自己理解へつなげることができる。</p> <p>公民 現代社会の状況を把握し、自分と社会との関係を捉え、より良い言動ができる。</p> <p>理科 学びの中から課題を発見し、論理的に解決する術を身に付ける。</p> <p>外国語 課題に対して演繹的に段階を追って分析することで、課題を科学的に説明する力を身に付ける。</p> <p>キャリアプランニング能力</p>
生徒への関わりから見た分掌の取組	<p>6</p> <p>3年 ホームルーム活動の中で成長を体験できるよう、生徒の個性や能力を生かすことができる学級づくりを行う。</p> <p>教務 進路実現に向けて取り組めることができるよう、授業力アップを図る。</p> <p>基本的な 基本的な学習態度を身に付けることができるよう、規律ある健全な学校生活を送らせる。</p> <p>自己の適性 自己の適性や興味・関心に基づいて、自分の学力分析と個性に応じた情報提供を行う。</p> <p>自他の生き方を尊重する意識や態度を身に付けることができるよう、人権を大切にする学校の雰囲気づくりを行う。</p> <p>自尊感情を養い、生き生きと学校生活を営むことができるよう、相談しやすい環境と支援体制をつくる。</p> <p>社会人としての人間力を高めるとともに、行動力を身に付けることができるよう、生徒の主体的な学習活動を支援する。</p> <p>進路実現に向けて健全な心身を保持することができるよう、担任と連携して健康チェックと適切な指導を行う。</p> <p>学びを深めるための読書習慣を身に付けることができるよう、進路選択に役立つコンテンツの提供を行う。</p>
部活動の観点から見た部活動のねらい	<p>7</p> <p>部活動 部活動を通じて、仲間と協力し、向上心、協調性を身に付ける。</p> <p>部活動 部活動を通じて、仲間と協力し、向上心、協調性を身に付ける。</p>

このプログラムシートは、三重県教育委員会事務局 高校教育課が平成26年3月に作成した冊子「高等学校におけるキャリア教育プログラムの策定に向けて」に掲載しています。

冊子及びシートは県教育委員会 Web ページからダウンロードできます。

三重県版キャリア教育モデルプログラム

5 「キャリア教育の観点から見た教科のねらい」の設定 P.15

教科をキャリア教育の視点から見直し、生徒や学校、地域等の実態に応じて、重点化・焦点化した内容を記述します。

※記述する教科とその数は、学校の実態に応じて異なります。
※モデルプログラムでは、ねらいを記載していますが、具体的な活動は、各教科・科目の年間授業計画等に記述します。

6 「生徒への関わりから見た分掌の取組」の設定 P.17

学校の教育目標を踏まえて、各分掌の取組をキャリア教育の視点で見直し、生徒のキャリア発達と関連の深い取組について記述します。

7 「キャリア教育の観点から見た部活動のねらい」の設定 P.19

部活動をととした基礎的・汎用的能力の育成について、ねらいを記述します。活動の内容によって各部の目標は異なりますが、学校としての方向性を示します。

◇ 卒業後への接続

卒業生が、学生生活や職業生活へ円滑に移行し、生き生きと活動するための、高校の教職員等による取組を記述します。

8 次へつなげるための振り返り（評価・改善） P.21

キャリア教育をととして生徒にどのような変化があったかを捉える活動が「振り返り＝評価」です。生徒の成長や変容を多面的に確認することによって、キャリア教育の取組の効果を検証します。

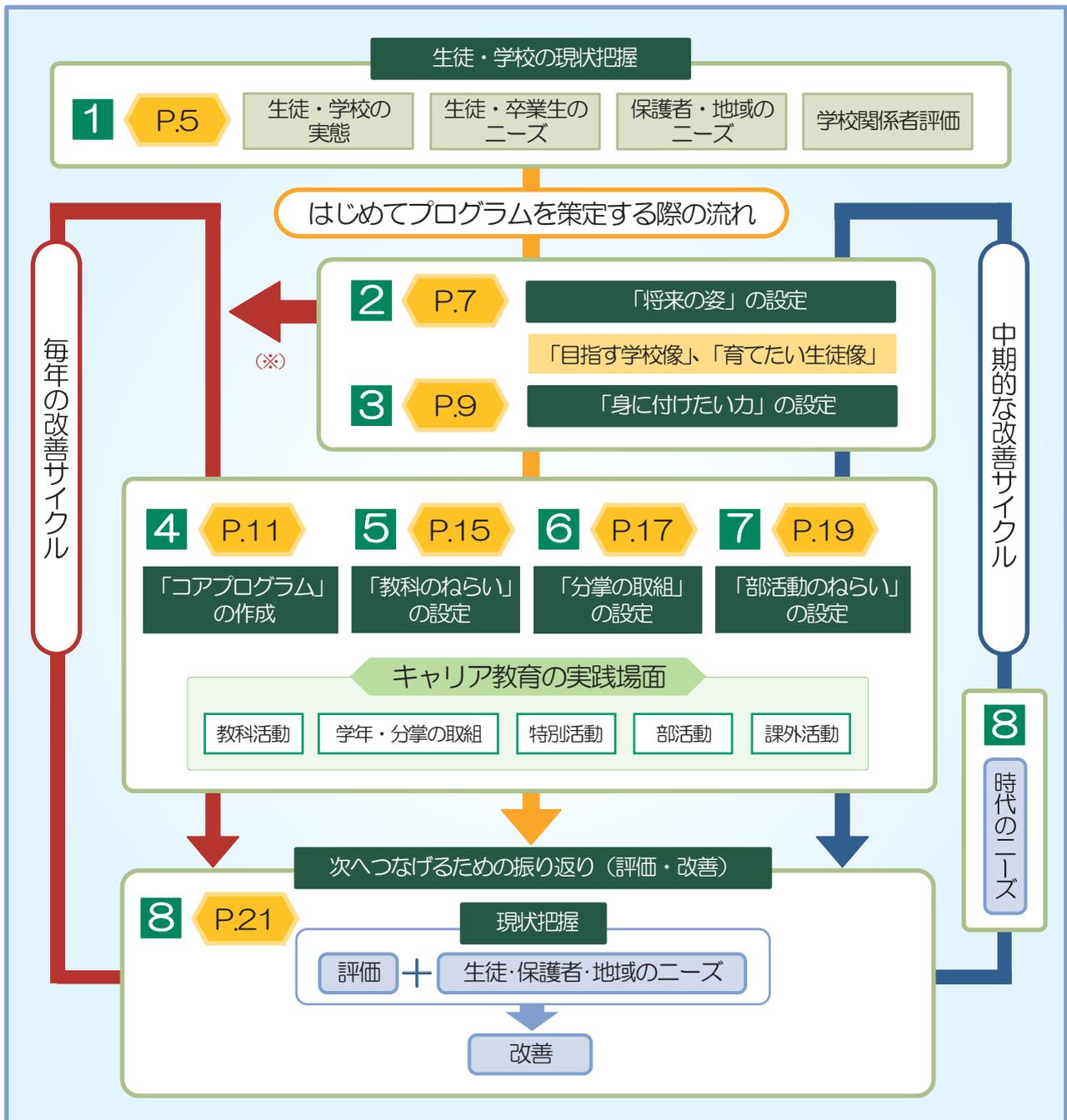
◇ 各項目の設定・作成に活用できるワークショップ P.23

各項目の設定や作成のために有効なワークショップについて紹介しています。

本ガイドブックの使い方



キャリア教育プログラムの策定と実践の流れ



(※) 「将来の姿」や「キャリア教育をとおして身に付けたい力」は、毎年見直す必要はありませんが、これらを意識して、改善を図る必要があることを表しています。

各段階について

- **第1段階（はじめてプログラムを策定する際の流れ）** →
生徒や学校の実態、卒業生や保護者、地域のニーズ等を踏まえ、「将来の姿」とその実現に向けて、高校時代に「キャリア教育をとおして身に付けたい力」を設定して実践します。
- **第2段階（毎年の改善サイクル）** →
「キャリア教育をとおして身に付けたい力」の育成状況を確認し、生徒の変容や実施内容を評価した上で取組を改善して実践を進めます。
- **第3段階（中期的な改善サイクル）** →
3年から5年のスパンで、学校の取組が、「キャリア教育をとおして身に付けたい力」の育成につながっているか、設定した「将来の姿」等が、時代の変化や生徒の実態に合っているか等を評価し、改善と実践を続けます。